

1 単元名 筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう(読む)(書く)

「平和のとりでを築く」「自分の考えを発信しよう インターネットと学習」

2 本単元の考え方

(1) 児童の実態

本学級の児童はこれまでに、「生き物はつながりの中に」で、文章の構成や表現から要旨をとらえ、文章全体を要約することや、筆者の考えについて自分の考えをもち書きまとめる学習をしてきている。「みんなで生きる町」では、資料「多くの人が使えるように」をきっかけに、自分の身の回りにあるユニバーサルデザインとそれらの工夫されている点について調べ、筆者のメッセージを受けて自分の考えたことをまとめ、友達と交流する活動をしてきている。これらの学習を通して、児童は重要な語句や文章から文章全体の構成をつかみ、事象と意見を区別しながら筆者の考えを読み取ることができるようになってきている。また、筆者の意図に沿って文章全体を要約したり、筆者の考えについて自分なりの考えをもったりすることができるようになってきている。

しかし、これまでに自分の考えをもたせて交流場面に臨ませているものの、考えの根拠を明らかにして発言したり、相手との共通点や相違点を意識して聞き取ったり聞き返したりできる児童は少なく、交流場面を通して互いの考えを深め合うまでには至っていない。本単元では、交流を通して自分の考えを明確に伝える力と、相手の意図や考えの根拠を的確に聞き取る力、そして自分の考えを深めたり広げたりする力を育てていきたいと考える。

(2) 教材観

本単元は、「平和」に関する説明文教材を事実と意見を区別しながら読むこと、必要な材料を集めて文章にまとめること、それを発信する学習等から構成されている。「平和のとりでを築く」では、「原爆ドーム」が、かつては物産陳列館として広島市民に広く親しまれていた時代から、原爆が投下され甚大な被害を被った後に、平和を築き戦争をいましめるための建造物として世界遺産に登録されるまでの経緯を述べた文章である。日本が過去に経験した戦争や原子爆弾投下についての史実と、それが世界遺産となった意味についての筆者の考えを読み取ることで、「平和」は自分たち自身の問題でもあることに気づき、自分の考えをつくるための動機付けにつながると考える。

「自分の考えを発信しよう」では、「平和のとりでを築く」の学習や教科書の資料をきっかけとしながら、今もなお世界の人々が強く「平和」を希求していることを知り、児童は「平和」に関連してもっと知りたい、調べたいと考えるであろう。また、「平和」について調べたことや自分の考えを発信することで、自分も「平和」を考える人の輪の一員である実感をもちながら、自分の考えを深め、表現力を高めることができると思う。

(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、以下の点に留意して指導を行っていく。

まず、導入段階においては、「平和のとりでを築く」を読み、原爆ドームがユネスコの世界遺産に登録されるまでの歴史的背景を史実に基づき、正確に読み確かめさせる。そして、一つ一つの叙述を丁寧に解釈しながら、筆者の考えや伝えたいことを受け止められるようにしていく。

展開段階では、筆者の伝えたいことをもとに戦争や平和について考え、小グループで友達と話し合う活動を取り入れ、自分の考えを書きまとめていく。その際、自分の考えの根拠となる材料を取捨選択し、

書き出しや文末表現，文章の構成を工夫することで，より説得力をもつ考えへと高めたい。そして，「インターネットと学習」を読み，インターネットを活用する上で大切なことやルールを理解したうえで，他校の児童に自分の考えを発信し，「平和」についての互いの考えを交流できるようにする。

終末段階では，これまでに学んだことを振り返り，「平和」について思いを交流したことの意義を実感し，今後も自分の問題として考える意欲をもたせていく。

3 単元目標

(1) 主目標

筆者が訴えたいことを読み取り，それについて自分の考えをもつ。

「平和」についてさらに考えるために調べたり話し合ったりし，深まった考えを分かりやすく組み立てて書いて交流する。

(2) 観点別目標

筆者の訴えを受けて自分なりの考えをもち，「平和」について関心をもって読んだり，話し合ったり，書いたりしようとしている。【関心・意欲・態度】

自分の考えを明確に表現するために，材料を取捨選択したり，効果的な文章の組み立てを考えたりすることができる。【書イウ】

事実と意見を区別して書いたり，対立する意見に反論を述べたりしている。【書エ】

筆者の考えをまとめ，自分はどのように考えるかを明確にしながら読む。【読工】

4 本単元におけるICTの効果的な活用

児童はこれまでに，総合的な学習の時間や社会科の調べ学習でインターネットを日常的に利用している。また，家庭でもコンピュータや携帯電話で，気軽にメール等の交換をしている児童もいる。ただし今までの学習活動では，情報を収集することや総合学習のまとめとして作品をつくることが中心となり，児童自身が外部に向けて情報を発信したり，受信したりするような経験はほとんどない。

このような実態から，本単元では，フリーソフトのIPビデオ通話を利用して，児童が「平和のとりでを築く」で学んだことや修学旅行の平和学習をもとに自分の考えを発信し，他校の6年生と交流する学習活動を考えた。

このIPビデオ通話は，インターネット回線での通話は無料で，ダウンロードすれば誰とでも通話することができる。また，USBカメラをインストールし利用することで相手の画像を見ながら通話をしたり，画像と一緒にデータをディスプレイ上に提示したりすることができる機能をもつ。プロジェクタで画面を拡大投影し，音声をスピーカから出せば，学級単位の交流も可能である。このように，地理的条件により直接交流が難しい相手とでも，相手の表情を見ながらリアルタイムで考えや意見を交換し合い，コミュニケーションを図ることができるというよさをもつ。

児童のほとんどは，同じ話題でメッセージをやりとりすることや，考えや意見をリアルタイムで交換し合うことは今回が初めてであり，この交流を楽しみにしている。外部へ向けて情報を発信する際には，インターネットを利用する上で気をつけなければならないルールやマナーについて学習することで，自分の情報に責任をもつことや情報の意味について考えさせたい。

5 指導計画（全14時間）

次	学習活動	教師の支援・情報
1	<p>学習の計画を立てる。（1時間）</p> <p>単元名を読み，学習の見通しをもつ。</p> <p>単元の構成を捉える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>事前に学習内容を知らせ，平和に関する記事や本，ホームページなどを読ませておく。</u> ・ 本単元が，「説明文の読み」「情報収集」「自分の考えの発信」という構成になっていることを捉えさせる。
2	<p>「平和のとりでを築く」を読み，筆者の伝えたいことを考える。（6時間）</p> <p>全文を読む。</p> <p>課題に対する自分の読みをまとめる。</p> <p>筆者の伝えたいことを読み取るための視点について話し合う。</p> <p>筆者の伝えたいことを書きまとめる。</p> <p>筆者の伝えたいことに対しての考えをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>光村デジタル教科書の本文ビューをプロジェクトで拡大投影し，本文を読ませる。</u> ・ 「原爆ドームは，世界遺産への仲間入りを果たすまでにどのような年月をたどってきたのだろう」「筆者は何を伝えたいのだろう」という課題を共通認識させる。 ・ 指示語が何を指し示しているのか正確に捉えさせる。 ・ 文末表現に着目させる。 ・ 文章構成を確認した上で，自分の読みを書きまとめさせる。 ・ まとめの段落の一つ一つの叙述を丹念に解釈して，筆者の伝えたいことを受け止められるようにする。
3	<p>自分の考えを発信する。（6時間）</p> <p>戦争や平和について話し合う。</p> <p>発信の目的・相手・課題・方法を決める</p> <p>調べることを具体化する。</p> <p>「仮の要旨」のまとめと説得力をもたせる材料集め。</p> <p>「仮の要旨」から「確定した要旨」にまとめ直す。</p> <p>自分の考えを書きまとめる。</p> <p>書きまとめたものを推敲する。</p> <p>推敲したものを発信する。（本時）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「平和のとりでを築く」やP41の資料をきっかけに，修学旅行の平和学習とつなげながら問題意識を高める。 ・ 発信相手が他校の6年生であることを知らせ，意欲を高めさせる。 ・ <u>課題を具体的にするように助言し，修学旅行で調査したことやインターネットなどで情報を集め，考えをまとめさせる。</u> ・ 事前に「インターネットと学習」を読み，情報モラルやインターネットの効果的な活用の仕方について理解させる。 ・ 効果的な文章の組み立てや書き出し，文末表現を考えさせながらまとめさせる。 ・ まとめた考えについては，小グループ（4人）の中で発表し，お互いに助言ができるようにする。 ・ <u>小グループの交流から考えを推敲したものを，IPビデオ通話を使って他校の6年生に発信させる。</u>
4	<p>学習をまとめる。</p> <p>この単元での学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 説明文の内容を想起させ，「平和」についての思いを交流したことの意義を実感させる。 ・ 「平和」についての考えは学校ホームページに載せていく。

6 本時 (13 / 14)

平成20年 11月 17日 5校時

(1) 目標

「平和」についての自分の考えや相手への質問意見を、根拠を挙げながら述べようとする。
自分の考えとの共通点や相違点を意識しながら相手の考えを聞き、自分の考えに生かそうとすることができる。

(2) 本時指導の考え方

前時までの学習で、児童は「平和」についての自分の考えを書きまとめ、友達どうしで交流し、助言し合った後、考えを推敲している。

そこで、本時の指導に当たっては、他校の6年生と考えを互いに発信し合い、相手の考えを自分の考えに生かそうとすることを主なねらいとしている。そのために、以下のように活動を構成していく。

まず、つかむ段階では、本時のめあて「平和についての考えを発信し合い、互いの意見を自分の考えに生かそう」を確認する。交流する際に留意する点として、「自分の考えを述べるときには、考えの根拠を明確にして述べる 相手の考えを聞くときは、自分の考えとの共通点や相違点を考えながら聞き取る」の2点を押さえて交流に臨ませる。

深める段階では、他校の6年生とIPビデオ通話を通じて交流を行なう。IPビデオ通話での会話はマイクとスピーカをセットして行ない、全体場で聞けるようにする。また、発表者の映像と考えの根拠となる図や絵、写真などを映し、ディスプレイ画面をプロジェクタで提示することで、双方の学級全体が参加できる形態をとる。交流活動では、予め双方で発表者を決めておき、発表している間聞く側は、ワークシートにメモを取りながら聞くようにする。発表が終わってから、このワークシートをもとに、相手の考えに対しての質問や意見を述べるようにする。1時間の中での発表者の数は限られているので、全員が交流に参加できる場の設定と、全員分の考えは事後にメールで送信し合うなどの手立てをとりたい。

まとめる段階では、交流後の振り返りを行ない、今後の活動の見通しをもたせる。他校の6年生と交流して感じたことや考えたこと、また交流して自分の考えが深まったところなどワークシートに自由記述させる。そして、交流を通しての感想をIPビデオ通話で伝え合う。「平和」についての考えは、今後学校ホームページに掲載し、さらに全国に向けて発信することを知らせ、児童の意欲を高めたいと考える。

(3) 本時の仮説

フリーソフトのIPビデオ通話を活用し、地理的条件により直接交流が難しい相手とでも簡単に情報交換ができる場を設定すれば、平和に対する考えを深め、児童のコミュニケーション能力を高めることができるであろう。

(4) 準備

コンピュータ1台 USBカメラ スピーカ マイク プロジェクタ スクリーン
ワークシート 枚

